

通信で使用する協調学習メソッドに対する学習者のビリーフ分析研究

2016/2017 年度ジョグジャカルタムハマディア大学日本語教育学科の 4 年生を中心
に

ヴィキ・レスフィカ

20130830056

要旨

協調学習法（CL）はジョグジャカルタムハマディア大学日本語教育学科の 4 年生の 7 学期に向ける通信という授業に実施された。本研究の問題設定は学習者は CL に対してどのようなビリーフを持っているかという疑問である。言語学習のビリーフとは学習者が言語学習においてある信念を持っていることである。更に、その信念は学習者の言語学習に影響を与えることができると言われる。本研究の目的は CL に対する学習者のビリーフを知るためである。

本研究の研究方法は記述統計方法である。データ収集は The BALLI (*Belief About Language Learning Inventory*)から開発したアンケートを使用した。アンケートの内容は 19 項目であり、三つのカテゴリーに分けた。その三つのカテゴリーは①通信の授業に対する学習者のビリーフ；②CL に対する学習者のビリーフ；③講師の役割に関する学習者のビリーフである。

アンケート分析から次のことが分かった。まず、通信の授業に対す学習者のビリーフは否定的であった。一方、CL や教師の役割に対する学習者のビリーフは肯定的であった。学習者は CL で学習をするときに同級生からの提案を聞いたり、同級生の作文を訂正しているうちに自分の間違ったところも気づいたりすることができたと言った。最後に、教師の役割に対する学習者のビリーフでは自分の作文を先生に訂正してほしいとほとんどの学習者が求めている。

キーワード：協調学, ビリーフ

1. 序論

一般に、読解、聞く、話す、書く4つの言語スキルがある。書くスキルは生産的な言語スキルであり、製品を生み出すスキルである。書くスキルを磨く学習活動は、一般的には佐久間コースで行われる。ジョグジャカルタの日本語教育モハマディア大学の研究プログラムでは、3学期、4学期、7学期に筆記試験（作文）を行いまる。

第3学期には、400字日本語をはじめ、様々なテーマで日本語の習慣を学ぶ400志塾講座がある。第5学期には、作文論文集をテーマにしたエッセイライティング研究を行いる。第7学期には、印刷物や電子媒体を用いた日本語の対応研究が行われている。

協調学習法（CL）を用いたPBJ UMYの勉強コースにおける学習活動である。MacGregor（1990）によると、CLは、問題を解決したり、タスクを完了したり、製品を作成するために一緒に働く学習者のグループを含む教育と学習のアプローチである。この場合は特に、日本語の対応を書いて意見を交換するように、通信にCLメソッドを適用します。

ただし、通信だけでなく、取得することができますが、また、学習の結果がより良くなるように学習に従うことで参加者と動機を高めることができる製品を学ぶ。しかし、学習においては、ビリーフ教師だけでなく、学習者ビリーフも同様に重要。誤った信念や、コースが難しいとすると、学習者に不安を与え、結果として学習成果に影響を与えることもある。

したがって、学習者が学習したことの学習者の信念を知ることは重要。研究者が研究のテーマを選択した理由は、研究者の個人的な経験から出発

している。研究の開始時に研究者は否定的な信念を持っていましたが、学習の終わりに結果はかなり良い結果を示しめられた。

問題の定式化は、ムワマディヤ・ジョグジャカルタ大学の日本語教育研究プログラムの信念学生が、2016/2017年7学期のCL法への練習でどのようになったかである。

2. 本論

A. データおよび研究の方法

本研究で用いた研究方法は、定量的アプローチによる記述的研究方法である。記述的量的研究は、研究の目的または研究の結果を記述することを目的とした研究である。本研究の目的は、教授法におけるCL法に対する生徒の反応や知覚を決定することである。

研究対象者信念学習者 PBJ UMY 第7学期、2016/2017年に35名の講座を受講しましたが、この調査の回答者は27名でした。

使用される器具は、BALLI (Belief About Language Learning Inventory) の5つのカテゴリーに分けられたアンケートです。a. 外国語の才能、b. 学習の困難、c. 言語学習の特徴、d. コミュニケーションと学習の戦略、e. 学習者の動機づけと期待。

B. 分析の結果と考察

a. 通信の授業に対する学習者のピリーフ

この章の信念学習者は、学習の困難、言語学習の特徴に関する学習者の信念のBALLIカテゴリーを指します。

テーブル 3.1.7. 通信の授業に対する学習者のピリーフ

| 質問 | 平均 | 標準偏差 | 回答者の数 |
|-----------------------|------|------|-------|
| 1. 通信は簡単であ | 2.56 | .751 | 27 |
| 2. 日本語でエッセイを書くことは難しい | 2.48 | .802 | 27 |
| 3. 日本語のエッセイを書く上で、文法の熟 | 4.30 | .542 | 27 |

| | | | |
|---|------|------|----|
| <p>練は非常に重要である</p> <p>4. 日本語の文章を書く上で、良い語彙は非常に重要である</p> | 4.33 | .480 | 27 |
|---|------|------|----|

学習者は、難しいコースとしてつしんに対して中立的な信念（あまりにも積極的ではない）を持っている。質問番号 1 の標準偏差が 0.751 であることは、ほとんどの学生がつしんコースが困難であることに同意していることを示している。これは質問 2 を参照している。平均値 2.48 で標準偏差 0.802 を示していることは、回答者の半数以上が日本語でのエッセイの書くことが容易であることを示している。

文法や語彙力が良いことが日本語の文章に影響を及ぼすと信じているからである。これは、平均値が 4.30 で標準偏差が 0.542 の質問 3 を参照している。同様に、4.33 の平均値および標準偏差 0.480 を有する質問番号 4 を有する。

b. CL に対する学習者のピリーフ

テーブル 3.1.8. CL に対する学習者のピリーフ

| 質問 | 平均 | 標準偏差 | 回答者の数 |
|--|------|------|-------|
| 10 ピアレスポンス技術の CL メソッドは、私が良い日本語の文章を書くのを助けてくれました | 3.78 | .751 | 27 |
| 11. 同輩の反応は友人からの意見を受け入れるのに役立ちます | 3.81 | .622 | 27 |
| 12. 私のクラスメートのエッセイを読んでも私の間違いを勉強することができる | 4.04 | .649 | 27 |
| | 3.67 | .679 | 27 |

| | | | |
|---------------------------------------|------|------|----|
| 13. 通信で使用にはピアレスポンス手法の CL メソッドが適している | 3.48 | .700 | 27 |
| 14. ピア・レスポンス・アクティビティが日本語エッセイを書く覚悟を高めた | | | |

平均スコア 3.78 および標準偏差 0.751 の表 (3.1.8) の質問番号 10 では、学習者は CL メソッドがエッセイを書く際に学習者を助ける傾向がある。これは質問番号 11 を平均 3.81 の標準偏差 0.620、質問番号 12 の平均値 4.04 標準偏差 0.649 を、友人からの意見を受け取ることができ peer respons 活動によって、友達が自分の間違いを知ることができる。

同様に、CL 法が通信の授業での使用に適しているとすれば、質問番号 13 の平均値 3.67 の標準偏差 0.679 の学習者は同意する。これは、静的結果が陽性であることを示す 3.48 標準偏差 0.700 標準の質問番号 14 に関する。回答者の半数以上が、CL 法が通信の授業で使用されていれば合意した。

c. 講師の役割に関する学習者のビリーフ

テーブル 3.1.9. 講師の役割に関する学習者のビリーフ

| 質問 | 平均 | 標準偏差 | 回答者の数 |
|--------------------------|------|-------|-------|
| 15. 講師に私のエッセイも読んでもらいたい | 4.37 | .565 | 27 |
| 16. 講師に自分のエッセイも訂正してもらいたい | 4.59 | .501 | 27 |
| | 3.96 | 1.055 | 27 |

| | | | |
|---|------|-------|----|
| 17. 講師が私のメモにたくさんのひらめきを与えると、私は好きではない | 3.70 | 1.031 | 27 |
| 18. 私は自分の能力が私の下にある友人によって私のエッセイを読んで訂正したくない | 4.04 | .808 | 27 |
| 19. 能力が私の下にある友人の構成を修正したくない | | | |

質問番号 15 では、4.37 標準偏差 0.565 と質問番号 16 の平均値は平均 4.59 標準偏差 0.501 であり、ほとんどすべての回答者が講演者の読解と修正を期待していました。しかし、回答者は、講師がエッセイに多くの修正を与えると好きではない。これは、平均値が質問 15 および 16 に比べて下がる質問番号 17 を指します。

質問 18 には 3.70 標準偏差 1.031 と質問 19 の平均値 4.03 標準偏差 0.808 の平均値がありますが、回答者の半数以上は、エッセイを修正してその下の能力を持つ友人の構成を修正したくないと同意します。

アンケートの質問の統計的な結果から、積極的な学習者の信念、特に日本語エッセイの訂正に教師が関与していると結論づけることができる。

3. 結論

データ分析の結果に基づいて、それは結論付けることができる。日本語を筆記した授業の信念学習者は、肯定的な傾向がある。通信の授業 CL に対する日本人の学習者の肯定的な発見。講師の役割に向かって信念の学習者はポジティブな発見。これは、教師が自分のエッセイを修正することを依然として期待する学習者の期待によって示される。

4. 参考文献

- Horwitz, E.K. 1987. *Surveying Students Beliefs About Language Learning. Learning Strategies in Language Learning*. Dalam Wenden and J.Rubin. *Learning Strategies in Language Learning*. 119-132. London: Prentice Hall.
- MacGregor, J.T. 1990. *Collaborative learning: Shared inquiry as a process of reform*. Dalam Svinicki, M.D. (Ed.), *The changing face of college teaching*, New Directions for Teaching and Learning No. 42. San Francisco; USA, Jossey-Bass Publishing.
- Sugiyono. 2015. *Metode Penelitian Kuantitatif, Kualitatif dan Kombinasi (Mixed Methods)*. Bandung: Alfabeta.

ANGKET

Angket ini merupakan salah satu instrumen yang bertujuan untuk mendapatkan gambaran mengenai *belief* mahasiswa terhadap metode CL dalam mata kuliah *tsushin* yang diselenggarakan pada semester VII Tahun Ajaran 2016/2017. Skala yang digunakan dalam angket ini terdiri dari skala berjenjang, yaitu **SS= Sangat Setuju, S= Setuju, A=Abstain (Ragu-ragu), TS= Tidak Setuju, STS= Sangat Tidak Setuju**. Isilah pernyataan dibawah ini dengan dengan membubuhkan **tanda centang (√)** pada kolom yang tersedia dengan sejujur-jujurnya. Terima kasih atas kerjasamanya.

Nama : _____

NIM : _____

*Daftar Istilah

CL (Collaborative Learning) : Suatu pendekatan pengajaran dan pembelajaran yang melibatkan kelompok peserta didik yang bekerja sama untuk memecahkan masalah, menyelesaikan tugas atau membuat suatu produk.

Peer Respons : Kegiatan mengoreksi hasil karangan yang dilakukan oleh sesama pembelajar dimana pembelajar saling bertukar peran sebagai pembaca dan penulis

| No | Pernyataan | SS | S | A | TS | STS |
|----|---|----|---|---|----|-----|
| 1 | Mata kuliah tsushin itu mudah | | | | | |
| 2 | Menulis karangan dalam bahasa Jepang itu sulit | | | | | |
| 3 | Menulis karangan berbahasa Jepang lebih mudah daripada berbicara dalam bahasa Jepang | | | | | |
| 4 | Penguasaan tata bahasa yang baik sangat penting dalam menulis karangan berbahasa Jepang | | | | | |
| 5 | Penguasaan kosakata yang baik sangat penting dalam menulis karangan bahasa Jepang | | | | | |
| 6 | Perbedaan struktur kalimat dalam bahasa Jepang dan bahasa Indonesia berpengaruh ketika menulis karangan | | | | | |
| 7 | Saya yakin bisa menulis karangan berbahasa Jepang dengan baik | | | | | |
| 8 | Jika saya memiliki kompetensi tata bahasa yang baik, maka saya akan dapat menulis karangan yang baik pula | | | | | |
| 9 | Jika saya memiliki kompetensi kosakata yang baik, maka saya juga dapat menulis karangan dengan baik | | | | | |
| 10 | Metode CL teknik peer respons membantu saya dalam menulis karangan berbahasa Jepang yang baik | | | | | |
| 11 | Kegiatan peer respons membantu saya untuk menerima opini dari teman | | | | | |
| 12 | Dengan membaca karangan teman sekelas | | | | | |

| | | | | | | |
|----|--|--|--|--|--|--|
| | saya bisa mempelajari kesalahan saya juga | | | | | |
| 13 | Metode CL teknik peer respons cocok digunakan dalam mata kuliah tsushin | | | | | |
| 14 | Kegiatan peer respons meningkatkan motivasi saya untuk belajar menulis karangan berbahasa Jepang | | | | | |
| 15 | Saya ingin dosen juga turut membaca karangan saya | | | | | |
| 16 | Saya ingin dosen juga turut mengoreksi karangan saya | | | | | |
| 17 | Saya tidak suka ketika dosen memberikan coretan yang banyak di catatan saya | | | | | |
| 18 | Saya tidak ingin karangan saya dibaca dan dikoreksi oleh teman yang kemampuannya di bawah saya | | | | | |
| 19 | Saya tidak ingin mengoreksi karangan teman yang kemampuannya di bawah saya | | | | | |

Tabel r (Koefisien Korelasi Sederhana) df=1-32

| df = (N-2) | Tingkat signifikansi untuk uji satu arah | | | | |
|------------|--|--------|--------|--------|--------|
| | 0.05 | 0.025 | 0.01 | 0.005 | 0.0005 |
| | Tingkat signifikansi untuk uji dua arah | | | | |
| | 0.1 | 0.05 | 0.02 | 0.01 | 0.001 |
| 1 | 0.9877 | 0.9969 | 0.9995 | 0.9999 | 1.0000 |
| 2 | 0.9000 | 0.9500 | 0.9800 | 0.9900 | 0.9990 |
| 3 | 0.8054 | 0.8783 | 0.9343 | 0.9587 | 0.9911 |
| 4 | 0.7293 | 0.8114 | 0.8822 | 0.9172 | 0.9741 |
| 5 | 0.6694 | 0.7545 | 0.8329 | 0.8745 | 0.9509 |
| 6 | 0.6215 | 0.7067 | 0.7887 | 0.8343 | 0.9249 |
| 7 | 0.5822 | 0.6664 | 0.7498 | 0.7977 | 0.8983 |
| 8 | 0.5494 | 0.6319 | 0.7155 | 0.7646 | 0.8721 |
| 9 | 0.5214 | 0.6021 | 0.6851 | 0.7348 | 0.8470 |
| 10 | 0.4973 | 0.5760 | 0.6581 | 0.7079 | 0.8233 |
| 11 | 0.4762 | 0.5529 | 0.6339 | 0.6835 | 0.8010 |
| 12 | 0.4575 | 0.5324 | 0.6120 | 0.6614 | 0.7800 |
| 13 | 0.4409 | 0.5140 | 0.5923 | 0.6411 | 0.7604 |
| 14 | 0.4259 | 0.4973 | 0.5742 | 0.6226 | 0.7419 |
| 15 | 0.4124 | 0.4821 | 0.5577 | 0.6055 | 0.7247 |
| 16 | 0.4000 | 0.4683 | 0.5425 | 0.5897 | 0.7084 |
| 17 | 0.3887 | 0.4555 | 0.5285 | 0.5751 | 0.6932 |
| 18 | 0.3783 | 0.4438 | 0.5155 | 0.5614 | 0.6788 |
| 19 | 0.3687 | 0.4329 | 0.5034 | 0.5487 | 0.6652 |
| 20 | 0.3598 | 0.4227 | 0.4921 | 0.5368 | 0.6524 |
| 21 | 0.3515 | 0.4132 | 0.4815 | 0.5256 | 0.6402 |
| 22 | 0.3438 | 0.4044 | 0.4716 | 0.5151 | 0.6287 |
| 23 | 0.3365 | 0.3961 | 0.4622 | 0.5052 | 0.6178 |
| 24 | 0.3297 | 0.3882 | 0.4534 | 0.4958 | 0.6074 |
| 25 | 0.3233 | 0.3809 | 0.4451 | 0.4869 | 0.5974 |
| 26 | 0.3172 | 0.3739 | 0.4372 | 0.4785 | 0.5880 |
| 27 | 0.3115 | 0.3673 | 0.4297 | 0.4705 | 0.5790 |
| 28 | 0.3061 | 0.3610 | 0.4226 | 0.4629 | 0.5703 |
| 29 | 0.3009 | 0.3550 | 0.4158 | 0.4556 | 0.5620 |
| 30 | 0.2960 | 0.3494 | 0.4093 | 0.4487 | 0.5541 |
| 31 | 0.2913 | 0.3440 | 0.4032 | 0.4421 | 0.5465 |
| 32 | 0.2869 | 0.3388 | 0.3972 | 0.4357 | 0.5392 |

RIWAYAT HIDUP



Nama Lengkap : Viky Rezfika

Tempat dan Tanggal Lahir : Muba, 08 Agustus 1996

Alamat : Telan Trimulyo Jetis Bantul

e-mail : viky.rezfika@gmail.com

Riwayat Pendidikan

- 2013-2018 : Program Studi Pendidikan Bahasa Jepang, Fakultas Pendidikan Bahasa, Universitas Muhammadiyah Yogyakarta
- 2010-2013 : SMAN 16 Palembang
- 2008-2010 : SMPN 1 Ogan Ilir
- 2001-2007 : SDN Primer 9 Karang Agung Ilir

Pendidikan Non Formal

- 2009-2010 : Kursus Bahasa Inggris Budiwijaya
- 2012 : Kursus Komputer Lami Komputer
- 2013 : Kursus Persiapan Masuk Perguruan Tinggi GSC

Prestasi dan Pencapaian

- 2011 : Juara II Inkado Tingkat Kota Palembang
- 2009 : Juara II Marching Band Tingkat SMP SMA